

2021 年度

一般入学試験 I 期

必須科目

試験時間 9 : 30 ~ 11 : 30 (120分)

- | | |
|-------|--------|
| 1. 国語 | 16 ページ |
| 2. 英語 | 6 ページ |

注意事項

- ①試験開始の指示があるまで、問題冊子の中を見ないこと。
- ②問題冊子の印刷不鮮明やページの落丁・乱丁等があった場合は、手を高く挙げて監督者に知らせること。
- ③試験終了の指示があったら、直ちに解答をやめること。
- ④試験終了後、問題冊子は持ち帰ることができます。

健康科学大学
看護学部 看護学科

1. 国語

※国語の問題は、全16ページです。

国語

1

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

最終氷河期が終わった一万七〇〇〇年前に始まった完新世^{かんしんせい}は終り、人類の活動が地球のさまざまなシステムを変え、それが地層に変化を与え始めているという見方が科学者の中に生れつつあることを知ったのは数年前のことである。その時の議論は、**A** 現在を新しい地質年代とする必要があるとするとところまで進んでおり、驚いた。

ここで、新しい地質年代を「人新世 (Anthropocene)」と名づけたのが地質学者ではなく、オゾン層破壊の研究で一九九五年にノーベル化学賞を受賞したP・クルツェンであるところに眼を向けたい。またそれを受けての専門家による議論の結果、「人新世」の始まりは一九五〇年という考え方が主流になっているところが興味深い。一万年ほど前の農業の始まりや、一八世紀の産業革命も考慮されたが、やはり一九五〇年が有力のようである。その理由は、二〇世紀後半になってプラスチック、コンクリートなどの大量生産・大量消費時代に入り、土に戻るものないこれらの物質がこれから長い間蓄積し続けるであろうという予測にある。このような構造物だけではない。エネルギー大量消費、森林の破壊などによる大気中の二酸化炭素の増加による地球温暖化も問題である。更にプルトニウムなどの核物質が核開発によって地球にまき散らされた。これらの物質やそれがもたらした地球の変化は、現在の私たちの生活にさまざまな影響をもたらしていることは事実であるが、これが地層に**(ア)** コウキユウ的な痕跡として残るのかどうかは改めて検討しなければならない。残らなければ新しい地質年代と呼ぶにふさわしくないからである。

専門家がどのような答を出すかは議論の結果を待つしかないが、実は私はそれにはあまり関心がない。「人新世」という言葉が示しているように、今起きている変化の原因は他にもない人間自身にあるのだ。今考えるべきは、ここにあげられているさまざまな課題が、今ここでの私たちの生活にどう影響しているかであり、必要なら私たちの生き方を変えることだと思っからである。

まず考えたいのは、地質に痕跡を残すと考えられている変化の時間が地質学での時間に比べて途轍^{とちやく}もなく短いことである。私自身のことを考えると一九五〇年は中学生、自分自身にも社会にも責任を感じながら生き始める年齢にあたる。つまり一九五〇年からこれまでの六七年は私自身が一人の人間として、社会の一員として生きてきた時間と重なるのである。そこで、「人新世」という言葉のもつ「人」をどう受け止めるかという問いに対する答はまさに「私」になるわけである。もちろん、私一人が社会を動かしたわけではないし、むしろ本音はこんな社会をつくるためにいつしうけんめいはたらいてきたのではないという感覚の方が強いのだが、この時代を生きたという事実は否定できない。

クルツェンが、地球環境の変化について語り合う専門家たちの議論を聞いて、「今は完新世ではなくすでに人新世に入っている」と思わず言ったその時の気持は、この変化の原因は私たち人間の活動にあるのだということを確認したかったのではないかと想像している。その奥には、このままでよいのかという問いがあつたのだろうとも思う。**B** 私も同じ思いを持っているからで

ある。現代文明を批判的に見て生き方を見直そうという提案はこれまでも度々なされてきた。しかし、何も変わらなかったし、今も社会の指導者たちはこれまで通り成長のかけ声をかけている。

なぜ変わらないのだろうかと問いながら暮らしている者としては、今回の「地質年代まで変わるのではないか」という指摘はインパクトがあり、人々の行動や考え方を変えるかもしれないという期待を持たされるものではある。しかし、核抑止力などと言いつつ、核兵器禁止条約への参加さえ考えようとしなない人達には何の影響も与えないだろうという声が、自分の中から聞えてくるのである。このまま進めば、恐らく今後地質年代が対象とする長さだけ人類が続くことは難しいであろうから「人新世」の議論は無意味となる。答はここにあるのではなからうか。

一九五〇年代を考える出発点はやはり第二次大戦の終結だろう。世界中の人を巻きこみ、終には原爆使用までした戦いに疲れ切り、言うなればすべての人が新しい世界を求めたのである。米ソの支配権争いはあったが、冷戦という形であり、多くの人の願いは生活の安定であった。

小学校四年生で敗戦を体験した私が求めたのは三度の食事を楽しみ、思う存分本が読める暮らしだった。科学技術によって物の豊かさや便利さを生み出そうという大人たちのかけ声に、映画やテレビで知るアメリカの人々の暮らしが世界中に広がることを夢の実現だと考えた。

まだまだ社会全体が貧しい中で化学を学び、生物化学、更には分子生物学を(イ)センコウし、それを生かした仕事をしながら平和で豊かな社会で市民生活を送る自分を思い描いていた。ところが、六〇年代には、早くもこの未来に大きな疑問符がつくようになったのである。水俣病、四日市センソクなど企業活動が原因の汚染と健康被害が日常の話題になり、一九六七年には公害対策基本法が生れた。一九六二年出版のレイチェル・カーソン著『沈黙の春』によって、現代文明が「生きもの」へのまなざしに欠けていることに気づかされた。一九七二年には国連人間環境会議が開催され、それと合わせてローマ・クラブ(注1)の委託で作られた『成長の限界』が出版された。当時作られた「宇宙船地球号」という言葉はほとんど使われることがなくなったが、ここで今思い起こされる。これ以降の経緯を述べることはしない。しかし、地球レベルの気象異常が見られる中で大国の大統領が第二一回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)による「パリ協定」(注2)からの離脱、核兵器禁止条約への不参加を選択する現状がある。被爆国でありながらそれに(ウ)ツイズイするという選択も理解に苦しむ。

「私」は、人間は生きものでありそれを基本に置かなければC一九五〇年代初めに求めた未来は現実にはならないことに気づいているのに、リーダーたちが牽引する社会は、「人新世」という言葉を生む方向へ動いてきたのである。ここでの「私」は日本で暮らす普通の人であり、世界にも同じ仲間がたくさんいる。

地質学の時間を思考の中に取り入れるなら、宇宙の中で人間の位置づけを考えることになる。宇宙創成から一三八億年、太陽系が生れて四六億年、その中の一つの星である地球に生きものが生れてから三八億年、その中でホモ・サピエンスが生れたのが二〇万年前という歴史が見えてきている。その中で賢く生きるとはどういうことだろうと考えることができるようになった今、私たちにできるのは、文明を持ち始めてからの一万年を振り返りながら、Dこれからの生き方を探ることだろう。

「人新世」の議論で気になるのは、今述べたように私たちが地球というシステムの中にいるこ

とは明らかであるのに、外からの視点で語られているところである。そしてこの地球が生きものとしての人間が暮らせないところになるであろうことを予測する人々は二つの選択を示す。一つは地球を捨てて他の星、たとえば火星に移住することである。第二は生物学、サイボーグ工学、AIを(工)クシして暮らしていこうというものである。現実に関、政治家・経営者・科学技術者は、イノベーション(注3)と称してこの方向への動きを明確な構想もなく進めている。この選択の先は、「地球に生れた生きものとしての」という言葉は消して、新人類誕生をイメージすることになるわけだが、イノベーションの提唱者たちはそれを支える理念・思想なしに経済と技術の側面から当面できることを考えているだけのように見える。

楽天主であることでは(オ)ジنگゴに落ちないと思っているのだが、今の流れを見ると、その私にさえ滅亡への道を歩いているようにしか見えない。こんな社会を次へ渡すつもりではなかったという気持が強い。

これぞ正解という答を出せるとは思わないが、生命誌(注4)の専門家と日常生活を大切にしたいと願いながら暮らす生活者という二つの重なりからは、一三八億年の時の流れの中で生れたホモ・サピエンスとして生きるという、いわば平凡な選択が最も現実的だろうという答が見える。そして、三八億年もの長い間この地球で生き続けてきた生きものの一つとしての人間の中に組み込まれた生きる力を思う存分生かして、すべての人がそれぞれの生活を生き生きと暮らす日常がイメージできるのはその選択であろうと考える。たかだかこの五〇年で積み上げた現代文明と、宇宙に始まり生きものの中に組み込まれた生きる力のどちらが優れているかと問えば後者だろう。複雑さの中に豊かさを持つさまざまなしくみを見るだけでも、それはわかる。

多様な生きものを仲間としながらその中で唯一、強力な想像力から生れる創造力を持つ人間として、社会制度や科学技術などをどのようにつくっていくか。その選択の中ではコンピュータもゲノム技術(注5)もその使い方は自ずとさまざまで、生きものとして生きる人々を支えることになるだろう。私個人は生命誌を基本に、「人間がつくりあげる文明の中で生きる私と三八億年の生命の歴史の中にいるヒトとしての私を重ね合わせた世界観」を持ち、すべてをこれに基づいて判断している。この方向が地球という星で、生き生き暮らす方法と考えてのことである。

もう一度まとめよう。「人新世」を地質年代とするか否かは専門研究者に任せたい。ただ、人間を生きものとして見る立場からは、それが意味あることとは思えない。「人新世」と思わず言わずにはいられない状態が続けたら、恐らく「人新世」を地質年代として見届ける人はいないだろうからである。

(中村桂子『「人新世」を見届ける人はいるのか』より抜粋)

注

(注1) ローマ・クラブ一九七〇年に発足した地球の未来に関する民間研究団体。人類の当面する危機を世界的規模で研究し、政策的提言も行う。実業家、政治家、研究者などの民間人で構成され、日本にも支部委員会がある。

- (注2) 「パリ協定」——二〇一五年に気候変動枠組条約第二一回締約国会議(COP21)で採択された地球温暖化防止に関する条約。世界的な平均気温の上昇を産業革命前に比べて二度より十分低く保つとともに、一・五度以内に抑える努力をすることを掲げ、締約国が五年ごとに削減目標を提出することなどを規定している。
- (注3) イノベーション——技術革新のこと。
- (注4) 生命誌——科学によって得られる知識を大切にしながら、生き物すべての歴史と関係を知り、生命の歴史物語を読み取る作業を中心とする学問。博物学や進化論、DNA、ゲノム、クローン技術など、人類の「生命への関心」を歴史的に整理し、科学を文化として捉える点に特色がある。
- (注5) ゲノム技術——ゲノム編集の技術のこと。生物が持つ遺伝子の中の目的とする場所を高い精度で切断すること等により、特定の遺伝子が担う形質を改良することができ、例えば品種改良のスピードアップが可能となる。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(ア) コウキョウ

- ① 暴動が全国にハキョウする
- ② 予算案をめぐってフンキョウする
- ③ 事件の真相をキョウメイする
- ④ 相手はジキョウセンの構えを見せた
- ⑤ 機智を働かせてキョウチを脱した

(イ) センコウ

- ① 実にセイコウに作られた模型である
- ② 容疑者の身柄をコウソクする
- ③ 先発チームのコウゲキを封じた
- ④ 他の店にタイコウして安く売る
- ⑤ 少年院での生活を経てコウセイした

(ウ) ツイズイ

- ① 凧は風にあおられてツイラクした
- ② 雌雄イツツイの鹿が描かれた掛け軸がある
- ③ 赤い血を持つことがセキツイ動物の特徴である
- ④ 部屋はツイタテで仕切られていた
- ⑤ 星を見ながらぼんやりとツイオクにふける

(エ) クシ

- ① 仕上げに手のこんだサイクを施す
- ② ぶどう畑の害虫をクシヨする
- ③ 壊れたわが家を見てゼツクした
- ④ 先祖の霊をクヨウする風習がある
- ⑤ 新市街と旧市街の二つのガイクがある

(オ) ジンゴ

- ① 記念品をゴシヨウ大事にしまっておく
- ② その考えは時代サクゴもはなはだしい
- ③ 断られるのは初めからカクゴしている
- ④ 最も安全なゴシン術は逃げることだ
- ⑤ 両チームともゴカクの戦いを演じた

問2 傍線部A「現在を新しい地質年代とする必要がある」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 私たちが物質的に豊かで便利な生活を追求し続けた結果、自然環境から隔離された人工的環境のもとで、人間と自然との有機的な関係が絶たれてしまうようになり、そのことが地層に不可逆的な変化を引き起こしたから。
- ② 私たちが科学技術の恩恵を享受することをあたりまえのこととして受け入れ続けてきた結果、その副産物として森林の破壊や地球温暖化などの重大な環境破壊が生じたにもかかわらず、環境保全の努力を怠ってきたから。
- ③ 自然界に還元されない人工物や核物質の大量廃棄、エネルギーの大量消費などによる地球温暖化といった人間の活動の副産物や副作用が今後も引き続き生み出され、地層にも長期的かつ根本的な影響を与える可能性があるから。
- ④ 核開発によってプルトニウムなどの核物質が地球上にまき散らされたことに象徴されるように、取り返しのつかない汚染の広がりや地球環境に重大な変化をもたらし、現在の私たちの生活にもさまざまな負の影響を与えているから。
- ⑤ 一万年ほど前に始まった農業や、十八世紀に起こった産業革命を契機として、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済システムが定着したことによって、現在をそれ以前とは性質の異なる新しい地質年代とする必要が生じたから。

問3 傍線部B「私も同じ思いを持っている」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 筆者は、物質的な豊かさや便利さをひたすら追求して築かれた現代文明とそれに安住する現代人の生き方を、今こそ批判的に見直す必要があると考えているから。
- ② 筆者は、環境破壊によって地質にはすでに不可逆的な変化が生じていることは明らかである以上、現在を「人新世」と呼ぶべきだという考えを共有しているから。
- ③ 筆者は、地球温暖化防止のためのパリ協定や核兵器禁止条約への不参加を選択した大国の指導者たちの意識を環境保全へと向けさせる必要があると考えているから。
- ④ 筆者は、クルツツェンが提唱した「宇宙船地球号」という考え方を、今こそ世界中の人々が共有し、地球環境への関心を高めるべきだと考えているから。
- ⑤ 筆者は、人間が、自然との共生という生きものとして当然の生き方を取り戻すために、科学技術に依存しない生活様式を模索すべきだと考えているから。

問4 傍線部C「一九五〇年代初めに求めた未来」とあるが、当時の筆者が思い描いていた「未来」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **8**。

- ① 科学技術の進歩が必ずしも人間に幸せをもたらすものではないことを自覚しながら、大量生産・大量消費がもたらす豊かさの恩恵を最大限に享受できる日常生活を送ること。
- ② 戦争の惨禍と敗戦後の混乱を経てたどり着いた平和な時代に、専門の学問的知識を生かした仕事をしながら、食事を楽しみ、思う存分本が読めるような日常生活を送ること。
- ③ 物質的な面ではたとえ貧しくても、すべての人が精神的な豊かさを追求しながら生き生きと暮らせるような社会の中で、好きな読書や研究に没頭する日常生活を送ること。
- ④ 映画やテレビを通じて知ることになったアメリカの人々の暮らしのように、科学技術によって生み出された便利なものに囲まれて、物質的に豊かな日常生活を送ること。
- ⑤ プラスチックなどの人工物が蓄積されたり、プルトニウムなどの核物質が拡散されたりすることのない、環境保全の行き届いた安心・安全な社会で日常生活を送ること。

問5 傍線部D「これからの生き方を探ること」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は **9**。

- ① 地球環境に甚大な被害を与えてきた最大の原因が科学技術の発達に頼ってきた現代人の生き方にあることを自覚し、破壊されかけた地球環境を元の状態に戻すために、科学技術に頼ることなく自然との共存を最優先するような生き方を模索すること。
- ② 人間がイノベーションを通じて地球環境そのものに介入できる生き物であることを自覚し、地球上のあらゆる生命を保護するという自らの使命を果たしつつ、人々が快適に暮らせる地球環境を未来の世代に残していけるような生き方を模索すること。
- ③ 三八億年もの長い間この地球で生き続けてきた生きものの頂点に立つ人間の中に組み込まれた生きる力を思う存分に発揮して、これまで積み上げてきた現代文明の成果をあますところなく継承し、それを次の世代のために発展させるような生き方を模索すること。
- ④ 宇宙創成以来の長い時を経て生まれた地球というシステムの中で、人間自身がそこに生きる「生きもの」であるという自覚に立ち、創造的な営みを通して社会制度や科学技術を構想し、人間以外の多様な生きものと共存できるような生き方を模索すること。
- ⑤ 人間だけが地球というシステムを外側から客観的に対象化して捉えることのできる生きものであるという利点を生かし、できるだけ多くの人々が自然科学の知識を身につけて、それをさまざまな形で日常生活に活かしていくような生き方を模索すること。

問6 本文の構成や内容と合致する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 筆者は、最初に自らの主張を明確に提示したうえで、自分自身の半生の歴史や現在の社会情勢・国際情勢に言及し、自らの現状認識や人生経験を織り交ぜながら現代文明への批判を展開し、結論として地球環境をめぐる問題の深刻さを改めて指摘している。
- ② 筆者は、まず論説全体の基本的な構成を読者に予告したうえで、「人新世」をめぐる地質学者の主張が誤っていることを、宇宙創成から太陽系と地球の誕生、二十万年前のホモ・サピエンスの登場といった壮大なスケールの歴史に照らして証明しようとしている。
- ③ 筆者は、最初に地球環境と現代文明に関する一般的な見解を紹介し、近年の地質学者の主張がこれらの見解と矛盾することを指摘したうえで、自らの現状認識や人生経験を織り交ぜながら、危機的な状況にある地球環境との向き合い方について論じている。
- ④ 筆者は、人類の未来についての理念や思想なしに、経済的・技術的に解決可能な目先の目標しか設定することができない世界の現状に対して悲観的であり、今後、地質年代が対象とするほどの長さだけ人類が存続することはできないだろうと結論づけている。
- ⑤ 筆者は、近年の「人新世」をめぐる議論を糸口として、自分自身の半生の歴史や現在の社会情勢・国際情勢に言及し、自らの現状認識や人生経験を織り交ぜながら、危機的な状況にある地球環境との向き合い方を、生命科学者としての立場から提示している。

2

次の文章は諸君祥彦の随筆『人生を半分あきらめて生きる』の一節である。これを読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。

学生や若者たちと接していて感じるのは、恋愛とか、結婚とか、子育てとか、私的な事柄について、旧世代基準の「ふつう」を求められることへの強い拒否感です。特に男性にこの感覚は強い。これを新しい時代への「適応力」と見るならば、いまだに「標準世帯イメージ」や「専業主婦」への憧れが強く、「経済的豊かさと安定」を求めて「年の差婚」に走ったりする女性たちは、男性に比べて、適応が遅れていると見ることもできます。

いずれにせよ、多様性をそのまま認める価値観が、若い世代には実感として育ちつつあります。そして多様な価値観を求めることのできる社会こそ、本当の意味で成熟した社会です。

「結婚くらいしないと」「恋愛くらいしないと」と「ふつう」を求めてくる大人の声には、「放つといてくれ！」と言いたくなるのが若い世代の本音でしょう。

(ア) 健全です。放つときましましょう。

それに比べると、「夫婦と子ども二人」の「標準世帯」を税制面で優遇するという国の発想の何と不健全なことか。もしあなたのお子さんが「結婚したほうが税金で有利になるから結婚することにした」と言ってきたら、あなたはどう思いますか。もちろん私は反対します。税負担の軽減のための結婚とは、あまりに不純ではないでしょうか。

少々脱線しました。話を本筋に戻しましょう。

「ふつうの仕事」「ふつうの収入」「ふつうの結婚」「ふつうの恋愛」「ふつうの家族」といった「ふつう」へのとらわれが、「ふつうから (イ) 落伍したくない」という気持ちが、私たちの中に、無用の焦りや不安を生みます。しかも、今や、かつての感覚での「ふつうの収入+ふつうの家族」という条件は、ごく一部の人にしか当てはまらないのです。

「ふつう」であることをあきらめることができなければ、私たちの生活に安心感はもたらされません。焦りや不安に絶えず付きまといられることになります。W その意味では、まさに「あきらめる力」が幸せの条件として求められていると言えるでしょう。

ここで私が思い出すのが、アルコール依存症者のためのセルフヘルプグループとして知られているAA（アルコホーリクス・アノニマス）でよく用いられている「(ウ) 平安の祈り」という短い詩です。神学者のラインホルド・ニーバーによるものだと言われています。

神様私にお与えください

自分に変えられないものを受け入れる落ち着きを

変えられるものは変えていく勇気を

そして二つのものを見分ける賢さを

「自分に変えられないものを受け入れる落ち着き」「変えられるものは変えていく勇氣」そして

「二つのものを見分ける賢さ」——これらは、まさに厳しい現代社会を生きる私たちすべてに求められているものではないでしょうか。

「あきらめなくてはいけない現実を静かに受け入れ、あきらめていく落ち着き」

「あきらめなくていいものをあきらめずに変えていく勇気」

そして「あきらめなくてはならないもの」と「あきらめなくていいもの」や「あきらめてはいけないもの」とを「見分ける賢さ」。

X)この力こそ、現代社会を生きる私たちにまさに求められているものではないでしょうか。

ここで、もう一つ、指摘しておかなくてはならないのは、「あきらめる」という言葉には本来、「ものごとの真実の在り様を明らかに見る」という意味がある、ということ です。

「あきらめる」には、もともと仏教の用語として、「真理を観察して明らかに見る」という意味があつたものが、日本では「明らかにする」もしくはその文語として「明きらむ」という使い方がなされるようになったのです。

「あきらめる」という言葉は、現在では、何かへの思いを仕方なしに断念するという消極的な意味で使われていますが、「諦」という漢字は本来、仏教用語で「諦観」「四諦」などと言われるように、「ものごとを正しく、あるがままに見て明らかにしていく」「明らかに見極める」「つまびらかにする」「明らかにする」「さとる」といった積極的な意味合いの強い言葉であつたようです。Y)それが、自分の置かれた現実から目を逸らさず、つぶさに見ることで、思いを絶たざるをえなくなる**ことがしばしばあること**から、現在のような意味合いで使われるようになったのです。

すべてのものは変化していきます。

若い時に、どんなに健康で強靱な肉体を誇った人でも、老いるにしたがつて、さまざまな能力が衰え、病を抱えるようになり、やがて死を迎えます。同様に、どんなに美しい女性も、老いて、その美が衰えていくのを避けることはできません。永遠に変わらないものは、何一つないのです。

こうしたものごとの変化をあるがままに見ることが、執着を手放し、思いを断つことにしばしばつながります。

齢を重ねるにしたがつて、昨日までできていたことが、明日はできなくなることがしばしばあります。私自身も、半年前、電車で本を読んでいたら、30分ほど経つたのち、文字がぼやけてきて、よく見えなくなる、ということがありました。これはたいへんだ、手術でも必要な病気ではないかと思い、慌てて眼科に行き、検査を受けましたが、何のことはないただの年齢相応(48歳)の老眼ということでした。まだまだ若いつもりだったので、裸眼で活字を追えなくなるという体験はかなりショックでしたが、その現実を受け入れざるをえません。

つまり、老眼という自分の身に起きた現実の変化を、「明らかに見る」ことで、いつまでも裸眼で活字を追っていたという「思い」を断たざるをえなくなったわけ です。

本来、ものごとを「明らかに見る」「見極める」という意味のあつた「あきらめる」という言葉は、こうしておのずと「思いを断念する」という意味でも使われるようになったのでしょう。すべては変化し永遠に変わらないものは何一つないことから、ものごとを明らかに見ることは、それに対する思いを断たざるをえなくなることにつながるのです。

2 「あきらめる」とは、ものごとを明らかに見て、つねに変化していく自然に従っていく、という生きる姿勢を指す言葉なのです。

(文章の一部と本文中の小見出しを省略した。)

問 1 傍線部 (ア) ～ (ウ) の表現の本文中の意味内容として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|---|--|
| (ア) 健全 | <input type="text" value="11"/> | { | ① 身体が健康である
② 精神が均等である
③ 考え方が普通である
④ 肉体が丈夫である
⑤ 思考が完璧である |
| (イ) 落伍 | <input type="text" value="12"/> | { | ① 人として品格を失う
② 人の仲間に入れない
③ 人よりも成績が悪い
④ 人の道を外れる
⑤ 人に後れを取る |
| (ウ) 平安 | <input type="text" value="13"/> | { | ① 心身が無事で穏やか
② 華やかで明るい
③ 平和で戦争がない
④ 古都の情緒を想う
⑤ 気持ちが乱れていない |

問2 傍線部W「その意味では、まさに『あきらめる力』が幸せの条件として求められていると言えるでしょう」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 旧世代の人々が求める「ふつう」の人生を手にするのが、現代社会では簡単ではなくなっているので、「ふつう」を追い求める焦りや不安から解放されることで、安心感が生まれる。
- ② 旧世代の人々が求める「ふつう」の人生を手にするのが、現代社会では簡単ではなくなっているので、多様な価値観を認めつつ自分の人生が成功する道を必死に探すことで、幸せになれる。
- ③ 旧世代の人々が求める「ふつう」の人生を手にするのが、現代社会では簡単ではなくなっているので、「ふつう」とは何かを改めて考え直すことで、自分が幸せになるとヒントが見つかる。
- ④ 旧世代の人々が求める「ふつう」の人生を手にするのが、現代社会では簡単ではなくなっているので、多様な価値観を持って多くのことを捨て去ることで、不安のない境地がおとずれる。
- ⑤ 旧世代の人々が求める「ふつう」の人生を手にするのが、現代社会では簡単ではなくなっているので、何としても自分だけは「ふつう」を手に入れたら努力することで、幸福な日々となる。

問3 傍線部X「この力こそ、現代社会を生きる私たちにまさに求められているものではないでしょうか」とあるが、その説明で最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 人並みの人生にこだわると不安を抱えやすい現代社会では、自分の人生そのものをまずはあきらめて、残った目標をあきらめずに達成するために、日々の努力を怠らないことが大切である。
- ② 人並みの人生にこだわると不安を抱えやすい現代社会では、自分の人生は決してふつうにはならないと覚悟することによって、自分なりの安定した人生の方向性を見つけることが大切である。
- ③ 人並みの人生にこだわると不安を抱えやすい現代社会では、自分の人生の中であきらめてもよいものを決めることで、他の全てのことはあきらめずに求めていこうと願うことが大切である。
- ④ 人並みの人生にこだわると不安を抱えやすい現代社会では、自分の人生において何をあきらめて、何をあきらめなくても良いのかを意識しながら、日々を過ごすための分別が大切である。
- ⑤ 人並みの人生にこだわると不安を抱えやすい現代社会では、自分の人生に役に立つことと無駄と思えることをきちんと見定める意思を忘れず、日々を冷静に送り続けることが大切である。

問4 傍線部Y「それが、自分の置かれた現実から目を逸らさず、つづさに見ることで、思いを断たざるをえなくなることがしばしばあることから、現在のような意味合いで使われるようになったのです」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 「あきらめる」という言葉は本来、自分を取り巻く現実を細かく直視するという前向きで積極的な意味を持っていたが、結果として自分の人生に絶望してしまう人々が多く発生してしまう悲しさが強調されて、「あきらめる」という言葉に消極性が生まれた。
- ② 「あきらめる」という言葉は本来、自分を取り巻く現実を細かく直視するという前向きで積極的な意味を持っていたが、結果として自分の現実の中で断念することをも多く発見できてしまう点が強調されて、「あきらめる」という言葉に消極性が生まれた。
- ③ 「あきらめる」という言葉は本来、自分の生活の全ての事を明るく照らすという弾力で積極的な意味を持っていたが、結果として自分の現実の中で断念することをも多く発見できてしまう点が強調されて、「あきらめる」という言葉に消極性が生まれた。
- ④ 「あきらめる」という言葉は本来、自分を取り巻く現実を細かく直視するという前向きで積極的な意味を持っていたが、結果として人はみな平凡で普通の人生しか送ることができないという実情が強調されて、「あきらめる」という言葉に消極性が生まれた。
- ⑤ 「あきらめる」という言葉は本来、自分の良い・悪い部分を見つめ直すことが大切だという積極的な意味を持っていたが、結果として自分の現実には悪い部分が多すぎると嘆くことが強調されて、「あきらめる」という言葉に消極性が生まれた。

問5 傍線部Z『あきらめる』とは、ものごとを明らかに見て、常に変化していく自然に従っていく、という生きる姿勢を指す言葉なのです」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- ① 人が生きてゆくうえで、社会からやめるよう強いられるものごとが多く存在してくるが、時間が過ぎ去るにつれて、ものごとを断念せずに続けてゆけば必ず報われることがあるという意義を、「あきらめる」という言葉は教えてくれる。
- ② 人が生きてゆくうえで、多様なものごとを常に直視することによって、安定せずに変化の絶えない社会の中にあっても、自然豊かな環境の行く末に人生の道筋を委ねることで幸せを感じられるという意義を、「あきらめる」という言葉は教えてくれる。
- ③ 人が生きてゆくうえで、自らの人生の中では断念しなければならないことも出てくるが、時の流れにあるがままで身を任せつつ、人生におけるさまざまなものごとをまつすぐに見つめ続ける意義を、「あきらめる」という言葉は教えてくれる。
- ④ 人が生きてゆくうえで、多様なものごとを常に直視することによって、安定せずに変化の絶えない社会の中にあっても、断念せずにものごとに取り組んでいけば自然と幸福な人生を送れるという意義を、「あきらめる」という言葉は教えてくれる。
- ⑤ 人が生きてゆくうえで、社会からやめるよう強いられるものごとが多く存在してくるが、大いなる自然の力を頼りにすることによって、人生で断念しなくても良いことが増えるという意義を、「あきらめる」という言葉は教えてくれる。

問6 この随筆の主題についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

18

。

- ① 筆者は、普通の人生という枠にこだわる古い価値観の終わりが現代社会に訪れているとして、自分自身の価値ある人生を見出すために、古い価値観を有するものごとを捨て去り、常に時代の流れを取り入れた新しいものごとが大切だと主張している。
- ② 筆者は、多様な価値観が若者を中心に広く浸透して普通の人生が定まらない現代社会においては、自分自身の生活水準を向上させるため、人生で達成できることと失敗しそうなことを見極めて、無駄の少ない現実を作り出すことが良いと主張している。
- ③ 筆者は、旧世代の求める普通の人生を若者たちが求めなくなっている現代社会においては、自分自身の人生に欠かせないものを見分けるために、多様なものごとを精査できる賢い知的能力のない人々は幸せをつかむことはできないと主張している。
- ④ 筆者は、現代社会では若者の間で価値観の多様化が当たり前のものであり、自分自身の生き様を固定して考えないために、断念すべきことにこだわることを避け、自然の法則のままに変化する現実の結果にしたがうものだと主張している。
- ⑤ 筆者は、価値観の多様化が進み普通の人生を送ることの価値が薄らぐ現代社会においては、自分自身の人生をこころ豊かに過ごすために、人生のものごとを見つめ向き合う中で、断念することも含めて、ありのままに現実を受け入れることが重要だと主張している。

※このページは空白

2. 英語

※英語の問題は、全6ページです。

英語

1

次の問い（問1～問5）の会話を完成させるために、（ ）内に入るのに最も適当なものを下の①～④のうちから一つずつ選べ。

問1 A: What day is Valentine's day on?

B: ().

A: I should go shopping on the weekend, then.

B: That's a good idea.

1

① It's a holiday

③ It's fourteenth

② It's next Tuesday

④ It's February fourteen

問2 A: Let me show you the photos that I took yesterday.

B: Wow, this is a beautiful flower.

A: Yes, I found it in the park.

B: ()?

A: I have no idea.

2

① What do you call it in English

③ How does it sound in English

② What does this call in English

④ How does it name in English

問3 A: Are there any drug stores around?

B: (). I'll look it up on the Internet.

A: Thank you.

B: No problem.

3

① I see

③ That is over there

② It is right around the corner

④ I'm not sure

問4 A: She seems to be really upset with you.

B: Do you have any idea why she is so mad at me?

A: ().

B: Could you ask her?

A: OK.

4

① I'm sure she is

③ I know exactly who she is

② I don't have a clue

④ I'll help you

問7 The older she grew, the attractive she became.

- ① best ② good ③ most ④ more

問8 His grandfather is suffering a broken leg.

- ① by ② to ③ from ④ in

問9 I always have extra cash I go.

- ① whatever ② wherever ③ whichever ④ whoever

問10 The medicine didn't me any good.

- ① do ② have ③ cause ④ find

3

次の英文(問1～問5)の下線部①～④のうち、誤りが一箇所ある。誤りをさがし、番号で答えよ。

問1 It ① goes ② without ③ say that excessive ④ drinking is bad for your health.

問2 I will ① keep you ② post ③ on ④ how things are going.

問3 He is capable ① of ② becoming quite angry ③ what he does not ④ get his way.

問4 ① Keeping your cholesterol level ② under control ③ can help ④ to blood flow.

問5 Our store had ① one choice ② but ③ to raise prices ④ by 5%.

4

次の問い(問1～問5)について、日本文の意味に合うようにそれぞれ下の①～⑤の語句を並べ替えて空所を補い、最も適当な文を完成させよ。(ただし、文頭に来るべき語も小文字で示してある。) 解答は ～ に入るものの番号のみを答えよ。

問1 自分にとって何が一番重要か見極めたほうがよい。

You should () () () () () to you.

- ① what ② figure ③ is ④ most important ⑤ out

問2 彼女は子供たちのために懸命に働いている。

She works hard () () () () ().

- ① of ② for ③ the ④ her children ⑤ sake

問3 彼ならこの問題が解決できるかしら。

I () () () () () this problem.

- ① if ② he ③ solve ④ can ⑤ wonder

問4 物事を当たり前と考えるのはやめるべきだ。

We should () () () () ().

- ① taking ② for ③ things ④ granted ⑤ stop

問5 さらに悪いことには雨が降り始めた。

() () () (), () began to rain.

- ① make ② it ③ to ④ matters ⑤ worse

5

次の英文を読み、問い（問1～問4）に答えよ。なお、*のついた単語には注がつけてある。

Dementia

Dementia is a general term that refers to several diseases affecting cognitive functions as well as social abilities, which in turn ^(a)interferes significantly with a person's daily life activities. Symptoms of dementia can vary greatly and may include declines in memory, cognitive abilities or communication skills. Furthermore, changes in personality and behavior, mood swings, anxiety, depression, and a deterioration of motivation can be observed.

Many types of dementia are progressive, which means that symptoms gradually get worse. However, the speed of dementia progress depends on each individual case. For some individuals, dementia progresses rapidly, (A) for others it takes years to reach an advanced stage.

Dementia is caused by the damage of nerve cells in the brain, which can result from brain cell death or neurodegenerative* disease. Toxic reactions*, such as those resulting from ^(b)excessive alcohol or drug use, and nutritional deficiencies* are also considered causes of dementia. Alzheimer's disease is the most common type of dementia, accounting for 60 to 80% of cases. The second most common type is vascular dementia*, which occurs after a stroke.

According to the Ministry of Health, Labor, and Welfare (MHLW), the total number of patients diagnosed with dementia in Japan was 4,620,000 as of 2012. At that point, the prevalence rate* was 15%, which means that one in seven older adults suffered from

dementia. In addition to this number, another 4,000,000 were considered to have mild cognitive impairment (MCI)*. This number is expected to rise significantly as the population (c)ages. A serious concern is that all of Japan's baby boomer generation, born between 1947 and 1964, will reach at least 75 years of age by 2025. It is estimated that the number of patients with dementia will increase from seven to eight million by 2030.

Given the current situation, the Japanese government (d)launched a campaign named "New Orange Plan: A Comprehensive Strategy to Accelerate Dementia Measures in 2015." The plan aims to reduce dementia cases among people over 70 years old by 6% between 2019 and 2025.

Seven pillars* within the plan have been set to accelerate these measures regarding dementia. These include such things as raising awareness and promoting the understanding of dementia, providing healthcare and long-term care services in a timely and appropriate manner, countermeasures for early-onset* dementia, supporting those who provide care for people with dementia, and creating friendly communities for older adults and individuals with dementia. Preventive actions will be implemented, such as promoting exercises and courses for older adults as well as establishing an authorization system* for commercial products and services designed to help prevent dementia. Research on dementia prevention and treatment, including therapy methods and medicines, has been encouraging; however, drugs that cure this mental health condition still need to be developed.

To achieve this goal, collaboration between medical and nursing care workers and the community is critical. Moreover, regional autonomy with strong support from the government is necessary to establish community-based care systems. Participation, collaboration, and information (e)dissemination among all stakeholders* are essential for accomplishing this goal.

NOTE: neurodegenerative: 神経変性の toxic reaction: 中毒反応

nutritional deficiency: 栄養不足・栄養欠陥 vascular dementia: 脳血管性認知症

prevalence rate: 有病率 mild cognitive impairment (MCI): 軽度認知障害

pillars: 柱 early-onset: 早発性の authorization system: 認定制度

stakeholder: 組織活動における全ての利害関係者

Source: Alzheimer's Association / Alzheimer's Society: Ministry of Health, Labor, and Welfare

問 1 下線部の (a), (b), (d), (e) の意味に最も近いものをそれぞれ①～④から一つずつ選び、番号で答えよ。

(a) interfere

① introduce

③ induce

31

② impede

④ increase

(b) excessive ① insufficient ③ extreme 32
 ② exact ④ deficient

(d) launch ① set out ③ set in 33
 ② set up ④ set to

(e) dissemination ① explanation ③ distribution 34
 ② shrinking ④ falling

問2 文中 (A) 中に入る最も適当なものを①～④のうちから一つ選べ。 35

- ① what
- ② as
- ③ that
- ④ while

問3 文中 (c) age(s) と最も近い意味で使われているものを①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① I haven't seen her for ages.
- ② He has begun to age.
- ③ Their ages differ too much.
- ④ We live in a computer age.

問4 本文の内容に合致するものを次の①～⑧の中から三つ選び、番号で答えよ。ただし、解答の順序は問わない。 37 ・ 38 ・ 39

- ① 認知症にかかっても日常生活を送るうえでは何の影響もない。
- ② 多くの認知症は進行性ではない。
- ③ 認知症の原因に栄養不良があげられる。
- ④ 厚生労働省によると2012年における認知症患者4,620,000人のうち4,000,000人が軽度認知障害であることが判明した。
- ⑤ 政府の掲げた新オレンジプランは2019年から2025年の間に70歳以上の認知症患者の6%の減少を目指している。
- ⑥ 新オレンジプランは高齢者を対象とするもので若年性認知症は含まれていない。
- ⑦ 認知症施策を推進するには、医療、看護、地域住民の協力が必要である。
- ⑧ 情報の共有は個人情報流出防止のため最小限に抑えなければならない。